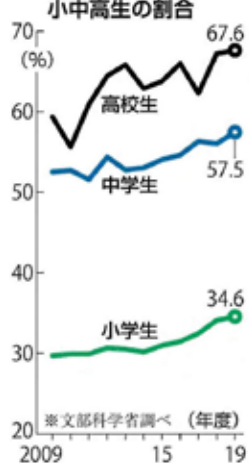


年 組 ( ) 番) 名前

記入日 月 日

●視力1.0未満の小中学生の割合



## ◆近視を防ぐための注意点

- ・1日2時間は外で過ごす
- ・読書や勉強は正しい姿勢で
- ・本は目から少なくとも30センチ以上離し、20分に1度は遠くを見る
- ・部屋の照明は明るすぎたり暗すぎたりしないようにする

## 外出自粛 子供の使用増

子どもの近視への不安が高まっている。新型コロナウイルスによる外出自粛などの影響で、スマートフォンやパソコンの画面を見る時間が増えていることが背景にありそうだ。

「教室で黒板の文字がぼやけて見えることが増えた」。東京都の中学2年の男子生徒は、新型コロナウイルスの流行後に近視が進み、約半年で眼鏡を作り直すことになった。

新型コロナウイルスの感染拡大で、学校の授業は週に1回、タブレット端末を使ったオンライン授業となり、友人とスマホでメッセージやりとりすることが増えた。緊急事態宣言期間中は、サッカー部の活動も中止になり、オンライン指導で自主練習に取り組んでいた。

## デジタル端末 近視ご注意

スクリーンを見る時間は1日2〜3時間。男子生徒は「端末に目を近づけないよう気をつけているが、気にせず外で遊べるようになってほしい」と願う。

男子生徒が通う井上眼科病院(千代田区)では、一斉休校明けの昨年6月以降、近視で受診する小中学生が増えている。担当の医

師は「コロナのために外出できず、スマホやタブレット端末などを利用する機会が増えたことが影響しているのではないかと話す。

近視は、小学生や中学生の時期に進行しやすいとされる。子どもの近視に詳しい東京医科歯科大の大野京子教授は「近視の発症や進行を防ぐには、目に負担をかけないことが大切」と指摘する。

(2021年4月2日 読売新聞夕刊より)

1 次のことがらについて、「目に負担がかかると考えられるもの」は×、「近視の予防になるもの」は○、「どちらとも言えないもの」は△を書きましょう。

- ( ) スマホを見る時間の増加
- ( ) 読書では時々休む
- ( ) 外で遊ぶ時間を作る
- ( ) 新型コロナウイルスの感染

2 記事に次の部分があることで、どのような効果が期待できますか。それぞれについて、下の□から最も適切なものを選び、番号で答えましょう。

- ( ) 中学2年の男子生徒の事例
- ( ) 表「近視を防ぐための注意点」
- ( ) グラフ「視力1.0未満の小中学生の割合」

- ① 読み手に知ってほしいことを目立つように書き、注意をうながす効果
- ② 現在と半年前の様子を比べて、以前の生活に戻るよう呼びかける効果
- ③ 具体的な例を示し、短期間で近視が進んでしまう危険性を伝える効果
- ④ 記事を要約して表にまとめ、わかりやすく読み進めるようにする効果
- ⑤ 近視の子どもがだんだん増えているということが、一目でわかる効果